

# かかみがはらの古墳

## 各務原の歴史環境

わたしたちの住む各務原は、木曾川中流域の北岸にあって濃尾平野の北辺部に位置しています。

地域の中央部には、各務原台地と呼ばれる東西約8km、南北約3kmに及ぶ安定した洪積台地が存在し、その北側に横たわる各務原山地との間には、西流する境川とその肥沃な沖積地帯が広がっています。

このような地理的環境のなかで、古代の各務原には幹線道路である東山道とその駅家が設置され、木曾川対岸の尾張地方との渡河地点としても、現在に至るまで歴史的に重要な位置を占めてきました。

そうした各務原の歴史的地域性を現在のわたしたちに伝えてくれるものに、数多くの遺跡があります。遺跡は、埋蔵文化財とも呼ばれて、古い時代の家の跡や、古墳、やきものの窯跡、城や館の跡など、あらゆる人間の生活の跡が含まれています。

現在、各務原に所在する遺跡は、767ヶ所が知られています。このなかで各務原に特徴的な遺跡としては、古墳とやきものの窯跡をあげることが

できます。特に古墳は地上に造られた人工的な築山として、現在でも十分な視覚的効果を保っているものです。

## 古墳の時代

各務原の古墳の総数は、滅失したものも含めると、約600基にのぼると言われています。これは、かつて美濃地域に所在した古墳の総数が3000基と言われていることからすれば、約5分の1を占めることとなり、各務原への古墳の集中が、美濃の古代史を考えるうえで、重要な問題として理解することができます。

ところで、古墳が造られた時代のことを古墳時代と言いますが、この時代は、その名前の示す通り巨大な前方後円墳から小規模な円墳に至るまで、ほぼ全国的に数多くの古墳が造られた時代です。その年代はおよそ4世紀から7世紀までの約400年間に相当し、それ以前にもそれ以後にも、このような古墳が日本において造られることはありませんでした。なぜなら、古墳とは、大きさの違いや形の相違は別として、当時のそれぞれの地域における政治的有力者の墓であり、そうした政治的有力者が自己の政治力や経済力を背景として、本人やその一族の為に、壮大な墳墓を築くことは、古代の専制的君主国家などに特徴的に見られることだからです。



鷺沼地区航空写真



### 各務原の前・中期古墳

各務原にのこる古墳のなかで、その形態や規模の点で特色のある古墳と言え、4世紀から5世紀にかけての200年の間に造られた古墳です。この時期に造られた古墳は、現在の各務原東部の鶴沼地区と各務原西部の那加地区に見られます。

鶴沼地区では、各務原台地の東縁部に一輪山古墳、衣裳塚古墳、坊の塚古墳があり、北東丘陵部に金縄塚古墳があります。

### <一輪山古墳>

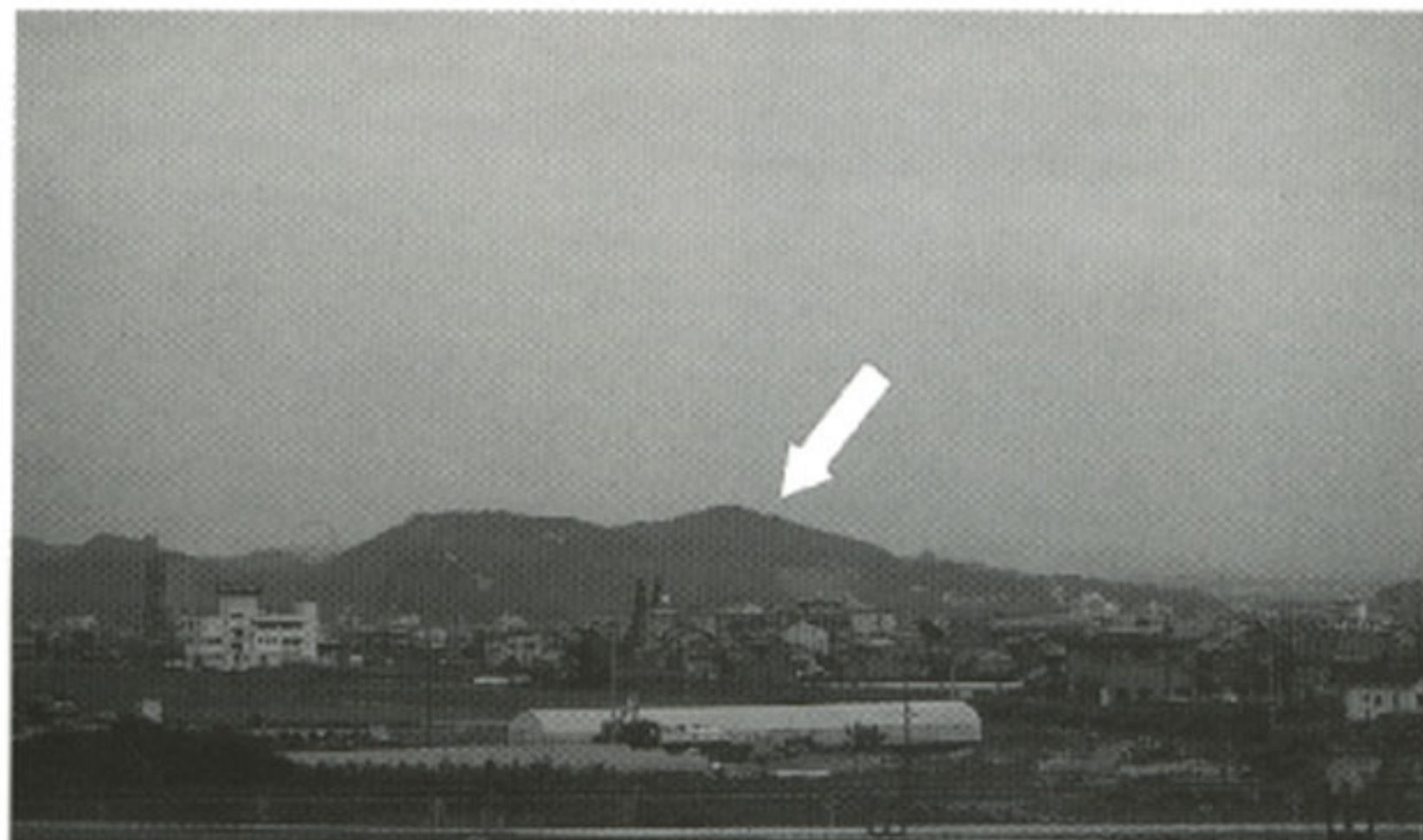
鶴沼西町の各務原台地東縁部に立地する古墳で、大正末期から昭和初期にかけて、開墾により滅失しました。

一輪山古墳の正確な規模は不明ですが、直径10～30mの古墳とされています。開墾の際に三角縁波文帯四神二獣鏡が一面出土しましたが、内部の埋葬主体部の状況などは不明です。築造時期は4世紀後半代に推定され、各務原で最も古い古墳



### 一輪山古墳出土の三角縁波文帯四神二獣鏡

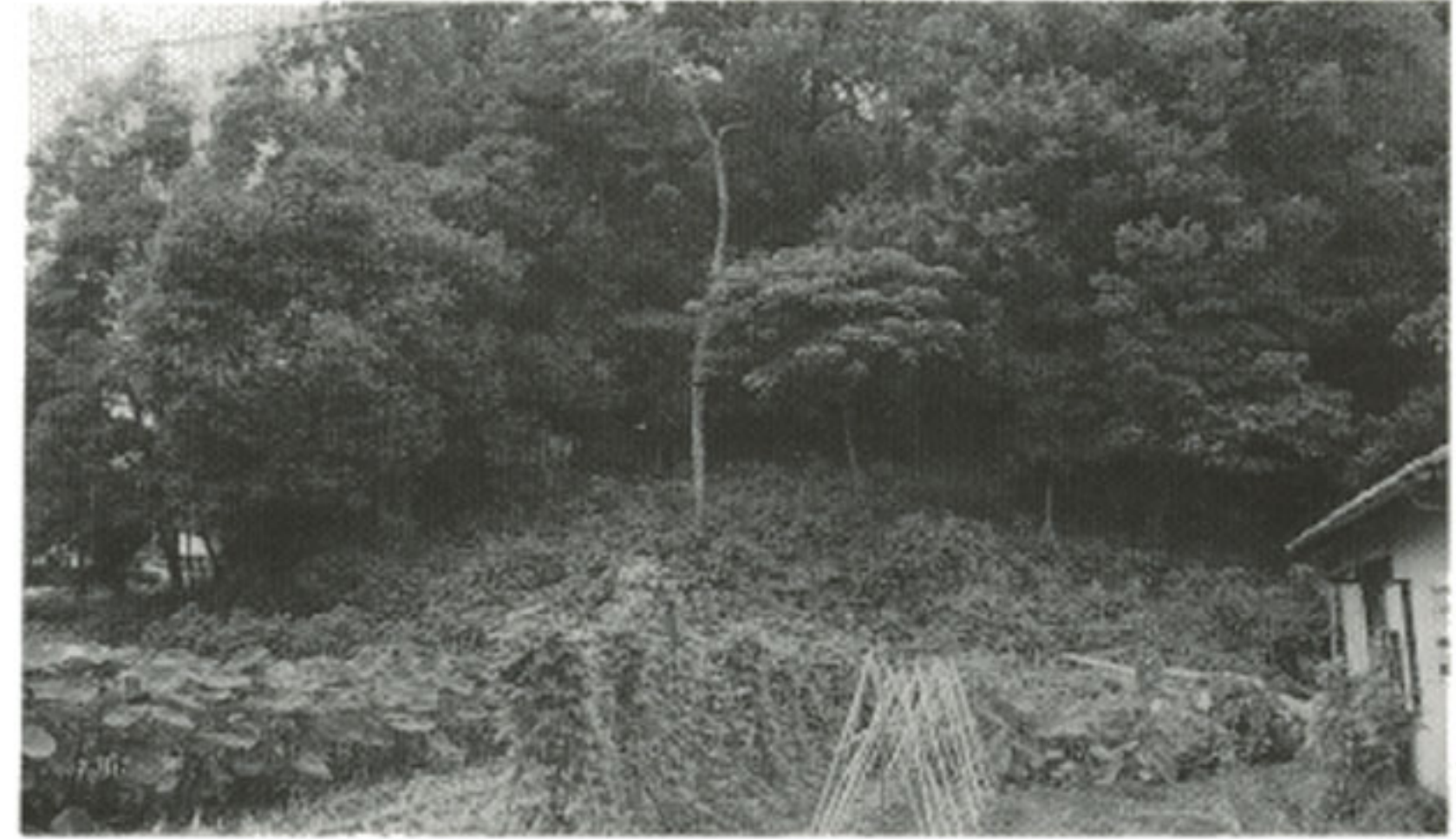
であるとともに、対岸の愛知県犬山市に所在する東之宮古墳（前方後方墳）からも同様な鏡群が出土していることから、両者の間には何らかの関係があったのではないかと考えられます。



東之宮古墳遠景

### <衣裳塚古墳>

鶴沼羽場町に所在し、一輪山古墳の西側、坊の塚古墳の北東約300mに位置しています。直径52mの円墳で、美濃に所在する円墳としては最大規模の古墳です。時期は5世紀初頭。



衣裳塚古墳

### <坊の塚古墳>

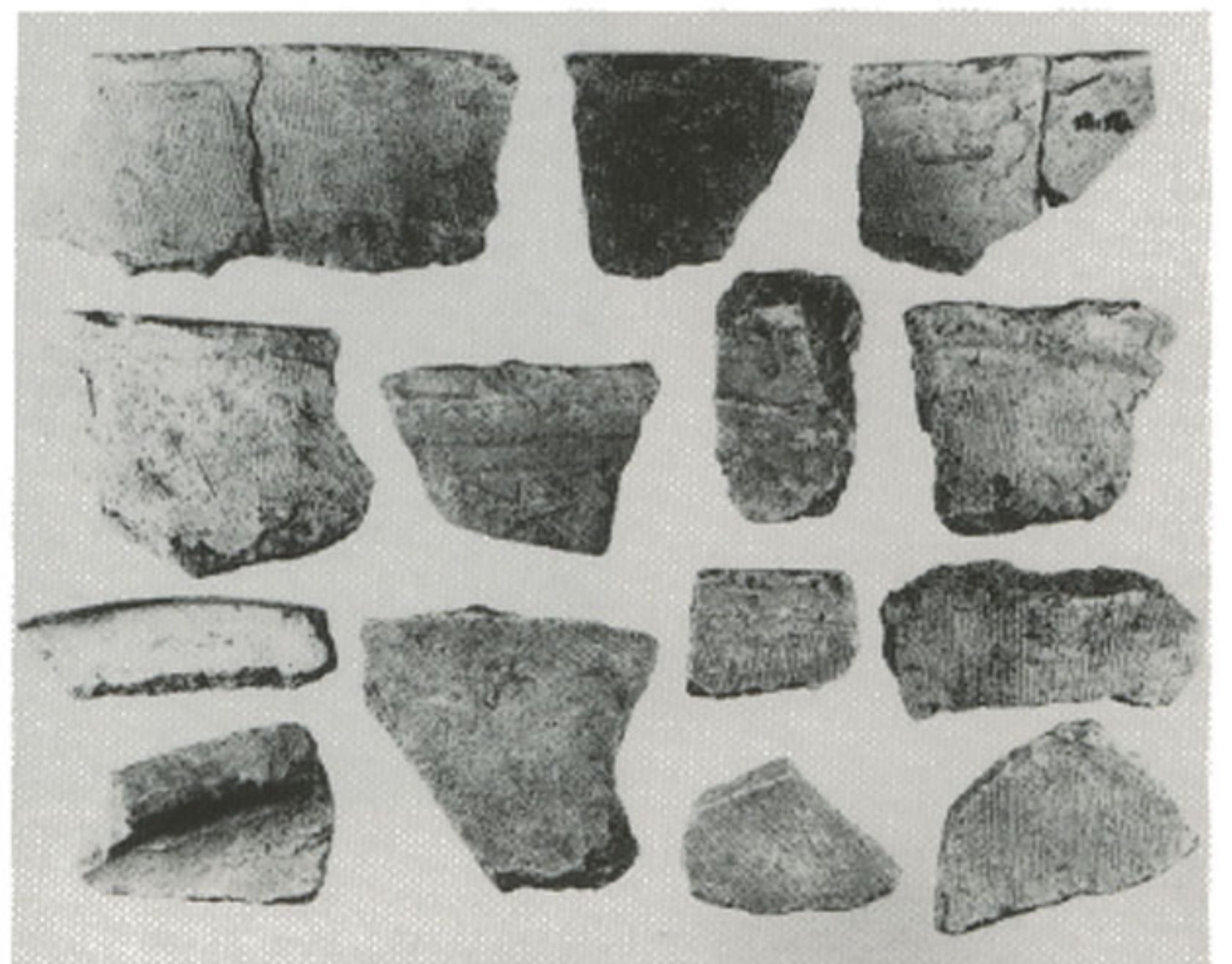
鶴沼羽場町に所在し、各務原台地東縁に主軸を沿わせて造られています。

全長が120mと規模からすれば大垣市の屋敷大塚古墳について県下第2位の古墳ですが、古墳時代中期に限れば、岐阜市琴塚古墳（全長115m）と並んで県下最大の古墳です。

墳丘には、葺石・埴輪がみられ、後円部の竪穴式石室からは滑石製の玉類や石製模造品が出土しています。時期は5世紀中葉代。



坊の塚古墳



坊の塚古墳出土埴輪



### <金縄塚古墳>

鵜沼地区の東部丘陵先端部に立地する直径38mの古墳です。主体部は大きく破壊されて原形を留めてはいませんが、これ以前の坊の塚古墳までとは造られた場所が異なる点が注目されます。時期は5世紀後半～6世紀代。



金縄塚古墳

那加地区では、地区の北西部に柄山古墳、現在は滅失している南塚古墳、そして、岐阜市に属する琴塚古墳があります。

### <柄山古墳>

沖積地のなかの独立丘陵上に造られた前方後円墳です。全長82mの墳丘には葺石がみられますが、埴輪は認めることができません。しかし、かつて、古墳の南側が誤って削られた際、鶏形埴輪の頭部が出土しました。時期は4世紀後半代。



柄山古墳



柄山古墳出土鶏頭埴輪

### <南塚古墳>

柄山古墳の西方、南に突き出す段丘の先端部に所在する前方後円墳です。昭和初期に宅地化により滅失したため、全長85m以上の規模と言われるのみで、埋葬主体部や出土品などは不明です。時期は5世紀前半代。

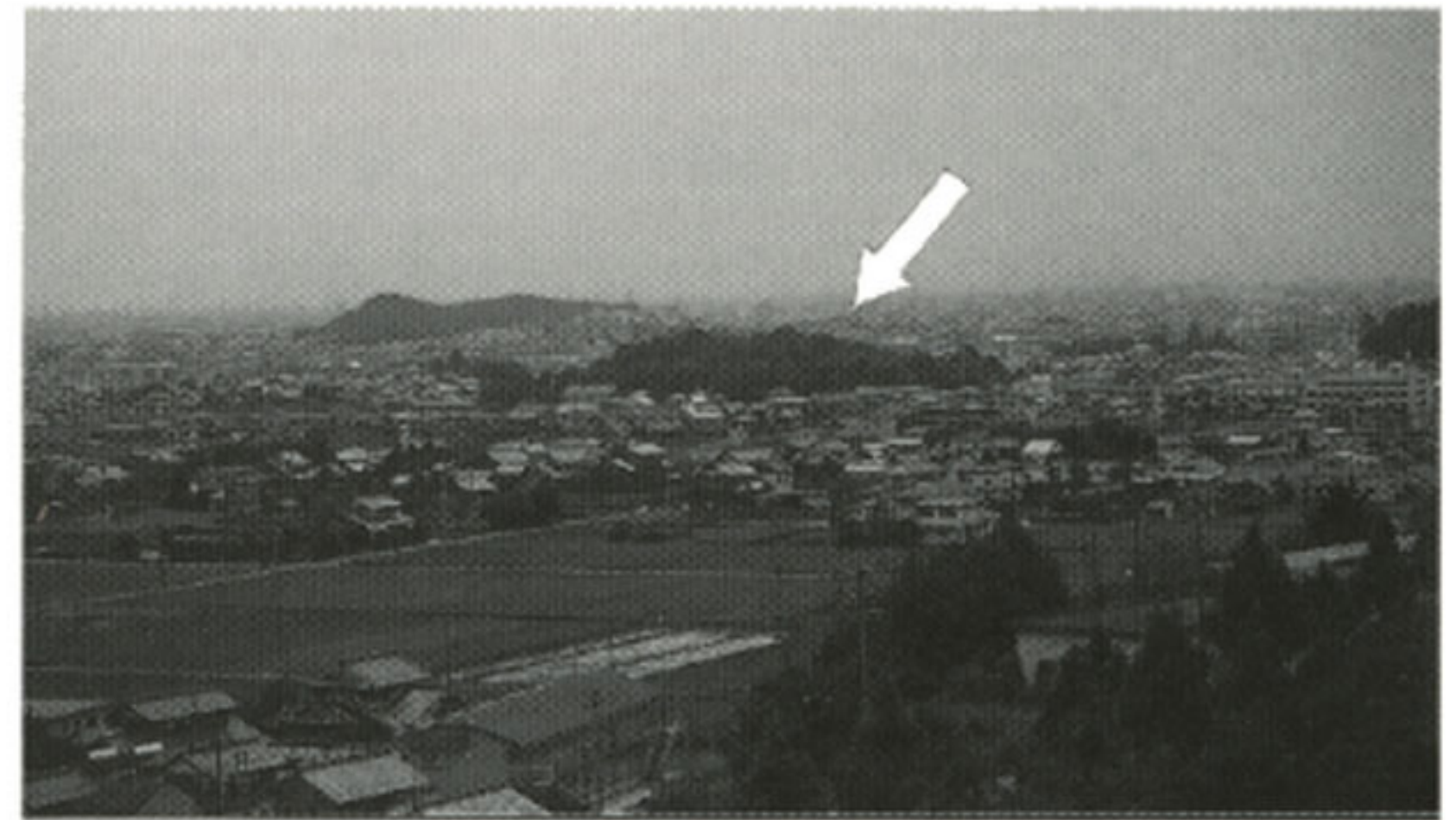
### <琴塚古墳>

南塚古墳とは、南流する小河川を挟んだ対岸の段丘上に立地します。

全長115mの前方後円墳で墳丘には葺石・埴輪がみられます。鵜沼地区の坊の塚古墳と並んで、各務原地域を代表する古墳です。時期は5世紀後半代。



南塚古墳の跡



琴塚古墳

### 巨大古墳出現の背景

鵜沼地区と那加地区に見られる前・中期古墳の優位性は、その地理的立地条件にも表れていると言えます。

鵜沼地区は、木曾川を挟んで美濃と尾張の重要な渡河地点であり、また、木曾川を遡れば、東濃地方への門戸をなす地区でもあります。また、対岸の愛知県犬山市にも有力な前・中期古墳が分布することから、両地区がこの時期に密接な関係を有していたと考えられます。一方、那加地区は、



各務原市西部から岐阜市南部にかけて広がる荒田川流域の沖積地帯最奥部であり、この地域一帯の水源地でもあることから、那加地区に造られた古墳はこの水源地を確保しつつ、流域に対する支配権を主張することに意味があったと考えられます。

こうして、各務原の古墳時代は、中期になると鶺沼地区の坊の塚古墳、那加地区の琴塚古墳という、同時期の美濃では、最も巨大な前方後円墳を出現させました。その背景には、この地域が歴史的な交通の要衝であることと共に、境川流域・荒田川流域の肥沃な沖積地帯における安定した農耕生産基盤を有するところから、美濃のなかでも政治的・軍事的な要地として、重要な位置付けがなされていたからと考えられるのです。

古墳時代は、前代の弥生時代の後を受けて、大和政権と呼ばれる有力な政治勢力（豪族集団）が、軍事的にも他地域の豪族たちの優位に立って、全国をその政治的影響下に置くべく、活発な政治的・軍事的活動を進めた時代です。このことは、全長が100m以上から、優に300mにも達するという巨大な前方後円墳が、現在の奈良県や大阪府を中心とする、かつての大和政権の中心地に数多く所在することから、ここに当時の日本で最も有力な豪

族集団が存在し、全国の他の豪族たちと様々なかたちで交渉しつつ、その勢力の拡大に努めていたことが理解されます。

美濃は、その地理的位置からも、西日本と東日本の接点であり、関ヶ原の地峡、木曾三川の伊勢湾河口、さらには、美濃と尾張との間に自然の障壁をなす木曾川の流れなど、古来、軍事的にもきわめて重要な地域とされてきました。

こうした要地である美濃のなかでも、各務原はその地理的中枢を占める位置にあたることから、坊の塚古墳や琴塚古墳などの巨大な前方後円墳が造られた背景には、大和政権の動きに敏感に対応していた、在地の有力な豪族の存在が考えられるのです。

編集 岐阜県各務原市那加桜町1丁目69  
発行 各務原市教育委員会文化課  
TEL 0583(83)1111 (代表)  
平成6年7月20日増刷  
撮影協力 藤田 一郎



那加地区航空写真

この写真は、岐阜市の承認を得て、岐阜市作成の写真を複製したものである。  
平成5年8月24日 承認番号第3号